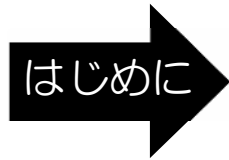


YG検査結果 [プロフィール表] 見方のポイント

☑プロフィール表には沢山の情報が詰まっている



① プロフィール表の全体を見る
 尺度（因子）を結ぶ折れ線の上から下に流れる形を確認し全体を見ます。プロフィール表の形状でその人の性格傾向が掴めます。[参照]YGテスト入門(第4版)P.8～9、P.48～59 にプロフィール表の形状を解説。



② 12個ある尺度を個別にみる
 例えば、型判定でD型（積極的）と判定しても、尺度（因子）を個別に見ると消極的と判別される人もいます。型判定はあくまで傾向なので、プロフィール表の詳細で被検査者の性格特徴を確認します。

12の尺度(因子)の上の半分は情緒面、下の半分は行動面を表しています。

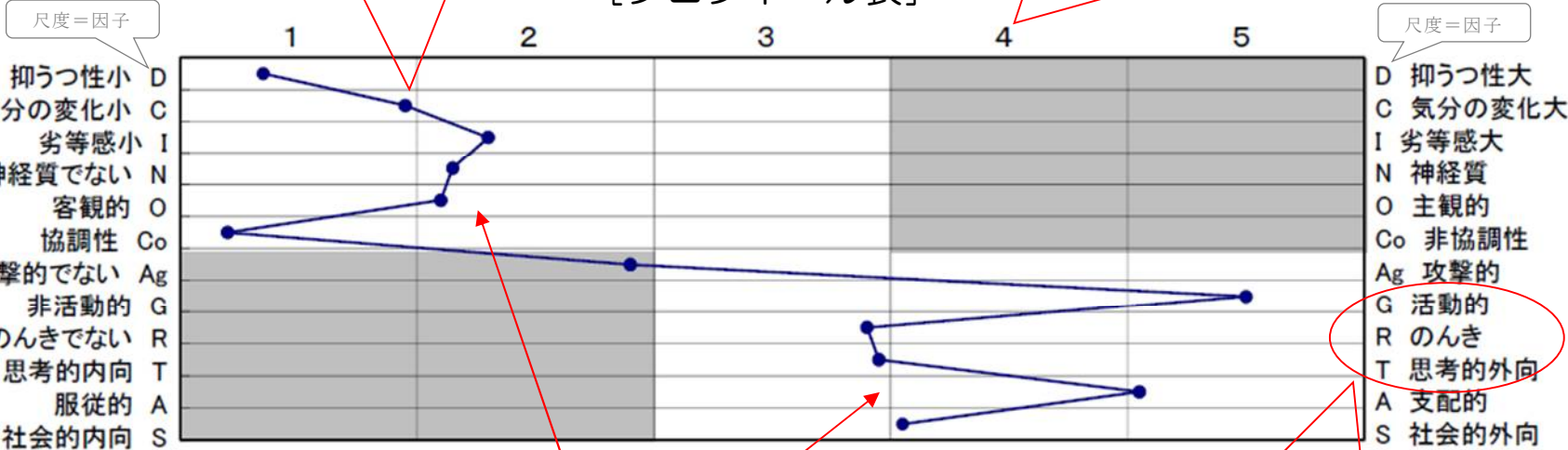
各尺度(因子)は強弱によって相反する特性を意味しています。各尺度の特徴を理解して、被検査者の性格を詳しく掴みましょう。[参照]YGテスト入門(第4版)P.34～43 に因子別の特徴を解説。

1～5のゾーンを目安にして各尺度(因子)の強弱の程度を捉えられます。
 例) G 活動性はゾーン5に位置している(活動性が強い)
 Co 協調性はゾーン1に位置している(協調性が強い)
 [参照] YGテスト入門(第4版)P.34～43 に因子別の特徴を解説。

[プロフィール表]

情緒

行動



情緒面は先天的な性格ですが、行動面は被検査者の現段階の特徴を示します。行動面は検査後に内外的な動機により本人に行動変化が起こると検査結果も変化します。例えば、決断の遅い人でも日頃の決断意識を高めることで決断の早い人になります。2～3年後に再検査をすると本人の成長変化を確認できます。

プロフィール表の上半分・下半分では因子が左・中・右のいずれかに集まっているのが一般的です。全体的に左右バラバラ(ギザギザ)が激しい人は内的なバランスが崩れているかもしれません。[参照]YGテスト入門(第4版)P.59 に解説を掲載。

G R Tの因子の位置関係で、**[熟慮型・衝動型・順応型・果断型]**のタイプが判定できます。[参照]YGテスト入門(第4版)P.47 下部の解説欄に判定方法を掲載。

[書籍情報]「YGテスト入門 第4版」は性格タイプ COM にて販売しています(送料無料・最短即日発送)。

書籍および検査用紙の販売は、日本心理検査協会倫理要綱を厳守し、法人事業者様に限定しております。